

岡山大学 2025 年度入試 化学 分析表

全体分析

| | | | | | |
|---|----|--|---|------|----|
| | | | 試験時間 2 科目 120 分 | | |
| 問題量 (昨年比) | 減少 | やや減少 | 同程度 | やや増加 | 増加 |
| 難易度 (昨年比) | 易化 | やや易化 | 同程度 | やや難化 | 難化 |
| <p>講評</p> <p>設問数が 60 であり，受験生が全問解答するにはやや多めの分量だが，本年は昨年まで出題されていた論述問題が無く，難易度もやや易化し標準的な問題が中心の出題であったことを考えると，適正な分量だと思われる。</p> <p style="text-align: right;">井上 慶久</p> | | | | | |

大問ごとの分析

| 大問番号 | 設問の分析・解答上のポイント |
|-------|--|
| 第 1 問 | 生成エンタルピー，燃烧エンタルピー，結晶の分類や融点，硬さ，電気伝導性などの性質，アモルファス（非晶質）などが出題された。標準的な設問が中心であるが，生成エンタルピーの公式を使わなければ，計算には多少時間が必要であったと思われる。 |
| 第 2 問 | モール法を用いた塩化物イオン濃度測定，塩化銀とクロム酸銀の溶解度積，水酸化カルシウム，塩化カルシウムの用途，鉛蓄電池から出題された。鉛蓄電池の電極重量の変化はよく出題される標準的な内容だが，溶解度積の計算は少し難しめであった。 |
| 第 3 問 | 1-ブテンの付加生成物，ベンゼンの誘導体，ジアゾ化反応，カップリング反応，マレイン酸とフマル酸の分子構造と融点の違いから出題された。シス形のマレイン酸（分子内水素結合）とトランス形のフマル酸（分子間水素結合）の融点を考察させる設問以外は教科書に掲載されている重要な化合物が中心の標準的な設問であった。 |
| 第 4 問 | 天然ゴム，NBR のアクリロニトリルとブタジエンの共重合比，糖類の還元性，フェーリング液の還元，アミロースとアミロペクチンの構造からの出題であった。標準的な設問が中心であるが，モノマーの共重合比の計算は少し難しめだった。 |